

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	味方 舞 (あじかた まい)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 49 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	味方 舞
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	大学生における表面的な友人関係と自己注目の関連の検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 本研究では、表面的な友人関係の形成、維持要因として自己注目がどのように関連しているかについて、自己注目が方略的に行われていることを説明するメタ認知療法の自己調節実行機能モデル (Self-Regulatory Executive Function : S-REF モデル) に含まれるメタ認知的信念に着目し、メタ認知療法と親密化を回避する行動の関連について検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 研究参加者 4 年制私立大学の大学生 215 名 (男性 46 名, 女性 164 名, その他 4 名, 平均年齢 18.87 ± 1.23 歳)。 測度 (a) デモグラフィック項目: 性別, 年齢, (b) 友人関係に関連するメタ認知的信念: 高社交不安者における注意の向け方に関するメタ認知的信念尺度 (MFAQ; 富田他, 2020), (c) 他者との親密化の回避: 友人関係尺度 (岡田, 1999) なお, MFAQ の下位尺度について, 富田他 (2020) に従い, 自己注目に関するネガティブなメタ認知的信念を「自己ネガ」, 自己注目に関するポジティブなメタ認知的信念を「自己ポジ」, 注意バイアスに関するポジティブなメタ認知的信念を「注意ポジ」, 注意バイアスに関するネガティブなメタ認知的信念を「注意ネガ」とする。</p> <p>倫理的配慮 研究参加者には, 研究協力は自由意思に基づくこと, 拒否による不利益はないこと, および個人情報の保護などについて, 文書と口頭で説明を行い, 同意する場合に質問票への回答を求めた。</p> <p>【結果・考察】 自己注目が他者との親密化の回避に及ぼす影響を検討するために, 階層的重回帰分析を行った結果, 注意ポジと注意ネガが高いほど, 他者との親密化の回避が多く行われることが示唆された。 この結果から, 表面的な友人関係の形成, 維持には, 自己注目の中でも他者からの反応への注目が関連している可能性があると考えられる。表面的な友人関係を持ち、不適応状態にある人に対しては、他者からの反応以外の刺激へ注意を分散させる支援の有効性が示唆された。</p>	

※無断転載禁止